

元気の出る情報・交流誌

2024

4月

[No.818]

手をつなぐ

特集

18の春を
みんなで笑顔で迎えるために

今月の問題

日中サービス支援型グループホームは機能しているか

ひびき

川田翔子(京都府八幡市長)



わたしの姉は福の神 [第7回] 抗がん剤の副作用 瀧川未子

わたしたちも言いたい アジア大会に参加して 下浦朱音 2

知りたい! あなたの見ている・感じている世界 [新連載] 好奇心をもってまねてみると 福田香苗 5

特集

18の春をみんなで 笑顔で迎えるために

18歳の春～不安と希望 大沼健司 8

卒業後、ここが心配! 10

支援者からのエール

送り出す側 学 校 山崎達彦 14

社会的養護を受けている子どもたちへ 北川聡子 16

迎える側 相談支援 本多公恵 18

障害福祉サービス 藤井 亘 20

就労支援 堀江美里 22

医 療 西村 幸 24

親も「卒業」する準備をはじめましょう! 善川夏美 26

ひびき

すべての人が輝ける社会づくりを目指す 川田翔子 28

いっしょに話そう! 性のこと。第13回

セックスについて考える① 門下祐子 31

今月の問題

日中サービス支援型グループホームは機能しているか 32

今月のオススメ 35

くらしを支える福祉の制度 第39回

障害者権利条約の総括所見について その3 又村あおい 36

けんりって何?

旧優生保護法の下でなされたことが二度と起こらないように

わかりやすい形で情報を伝える 羽山慎亮 38

世界の動き

4年ぶりに現地開催!～アジア知的障害会議in マカオ～ 寺澤宣通 40

中央の動き

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の方角性 (3) 42

ニュースのじかん 45

ちいきのいいもの 第44回

茶処ラスク いづみ福祉会

◎ 表紙絵作者のプロフィール

- カラフルアーティスト Fuka 18歳 ■神奈川県横浜市 ゆたかカレッジ 横浜キャンパス ■タイトル Colorful Sea Parade
- ひとこと 支援学校に通っていた頃の生徒達と保護者が、海のカラフルなパレードを楽しんでいる様子を描きました。



アジア大会に参加して

北海道

下浦朱音

「アジア大会に参加しませんか」と聞かれて、
行ってみたいと思いました。

違う国の人たちがどういう活動をしているか

知りたかったからです。

私は飛行機に乗るのが初めてで、とても緊張しました。

でも、いつも一緒に仲間がいたので安心でした。

マカオに着いたら他の日本人たちもいて、
友達になろうと思いきり名刺を配りました。



そして、すぐに話すことができました。

発表では、スワンベーカーリーでお仕事していることを

英語で発表して、

緊張したけど頑張りました。

拍手をたくさんもらって、うれしかったです。

最後の日にフラダンスをみんなで踊って楽しかったです。

支えあつて頑張れました。

また飛行機に乗りたいです。

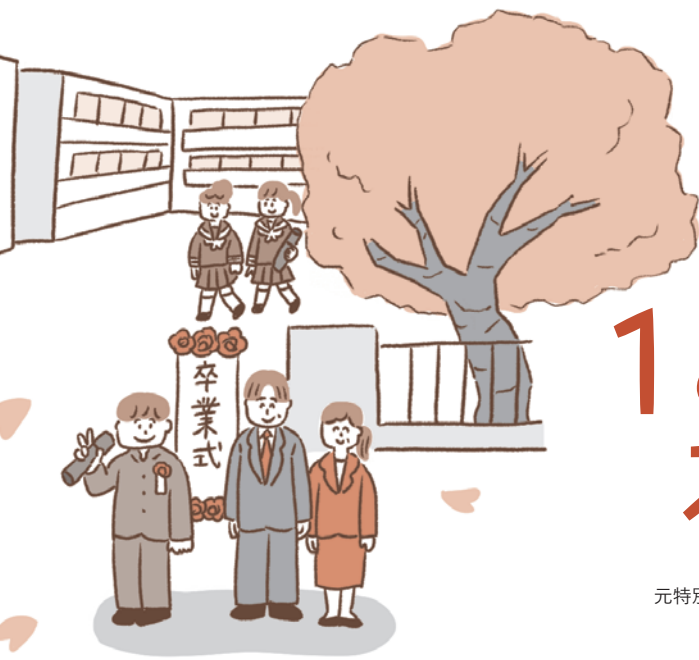
(注) 2023年11月に第26回アジア知的障害会議がマカオで開催され、下浦さんは一般参加者として出席しました。この会議については、本誌「世界の動き」(40・41ページ)でも報告しています。

「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています(宛先は48ページ)。生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。

18の春をみんなで 笑顔で迎えるために 手をつないで不安を笑顔に

卒業おめでとうございます！ 新しい環境に進むことになる春。
 18歳を迎え、支援も環境も大きく変わることに、親子で不安を感じていませんか？
 最近は選択肢が多様化してきており、何を選ぶか迷います。
 新たな出発に際し、どんな準備をしたらいいのか、生活はどのように変わるのか、
 などをわかりやすくご紹介します。
 その不安が笑顔になるように、専門分野の支援者たちが熱いエールを送ります！

	Aさん(中学生)	Bさん(生活介護事業所)	Cさん(企業就労)
6:00	起床・朝食	 起床・朝食	起床・朝食
9:00	登校 授業	送迎車で事業所へ 生活介護	通勤 企業で仕事
12:00	給食	給食	お弁当
15:00	放課後等デイサービス 帰宅	送迎車で自宅 ヘルパー利用	
18:00	夕食	夕食	帰宅&買い物 夕食
21:00	入浴 就寝	入浴 就寝	入浴 就寝



18歳の春～不安と希望

元特別支援学校教員、東京・特定非営利活動法人Ohana 大沼健司

毎年度約1万8千人（注）のこどもたちが、知的障害特別支援学校から社会に旅立っていきます。一人ひとりが自分だけの大切な人生を歩んでいくのです。月並みですが幸多からんことを願うばかりです。

その18歳になると現在の日本では「成人」となり、つまり「大人」となります。それと同時に利用できる様々な福祉サービスも変わってきます。今回の特集では、18歳を迎えるにあたって生じている不安やその状況をテーマに、送り出す側・迎える側の視点も交え、みなさんと考えていきたいと思います。

学校卒業 そしてその後の大きな変化

学校を卒業すると、働く場に合わせた時間が流れます。また利用できるサービスの根拠法令も「児童福祉法」から「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（以下、総合支援法）に変わります。総合支援法のサービスには、卒業後の進路である「就労移行支援」「生活介護」やグループホームで生

活をする「共同生活援助」等があります。卒業後はサービスの申請の方法や、受給者証も変わります。つまり、18歳（主に3月31日）を境にサービスを受けるための法律が変わり、利用できる施設も変わってきます（20歳までの特例を利用する場合は除く）。

そのような変化の中で一番大きな点は、学校卒業後は放課後等デイサービスが使えなくなることかもしれません。子どもが高等部在学中のお母さんから、「通所予定の進路先の事業所は15時30分までで、送迎バスで16時には帰宅。その後の時間をどうしたらよいのか？」と相談を受けたことがあります。

また相談先も変わってきます。在学中は学校が多かったのではないのでしょうか。卒業後は施設の職員や「相談支援事業所」の相談員との連携が大切になります。企業就労の場合は「障害者就業・生活支援センター」の職員も相談先となります。

相談先が変わると、「これからわが子の説明が必要？」となるかもしれません。しかし、学校から地域・社会への移行期に